

横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）の実施状況について

□ 市役所の事務・事業における 2021 年度の温室効果ガス排出量について

市役所の事務・事業から排出された 2021 年度の温室効果ガスは 83.8 万 t-CO₂ で、基準年度である 2013 年度の排出量 91.6 万 t-CO₂ と比較して 7.8 万 t-CO₂、8.6% 減となりました。
引き続き、照明設備の LED 化や次世代自動車の導入など、様々な対策を推進・強化していくことで、目標達成に向けた取組を進めていきます。

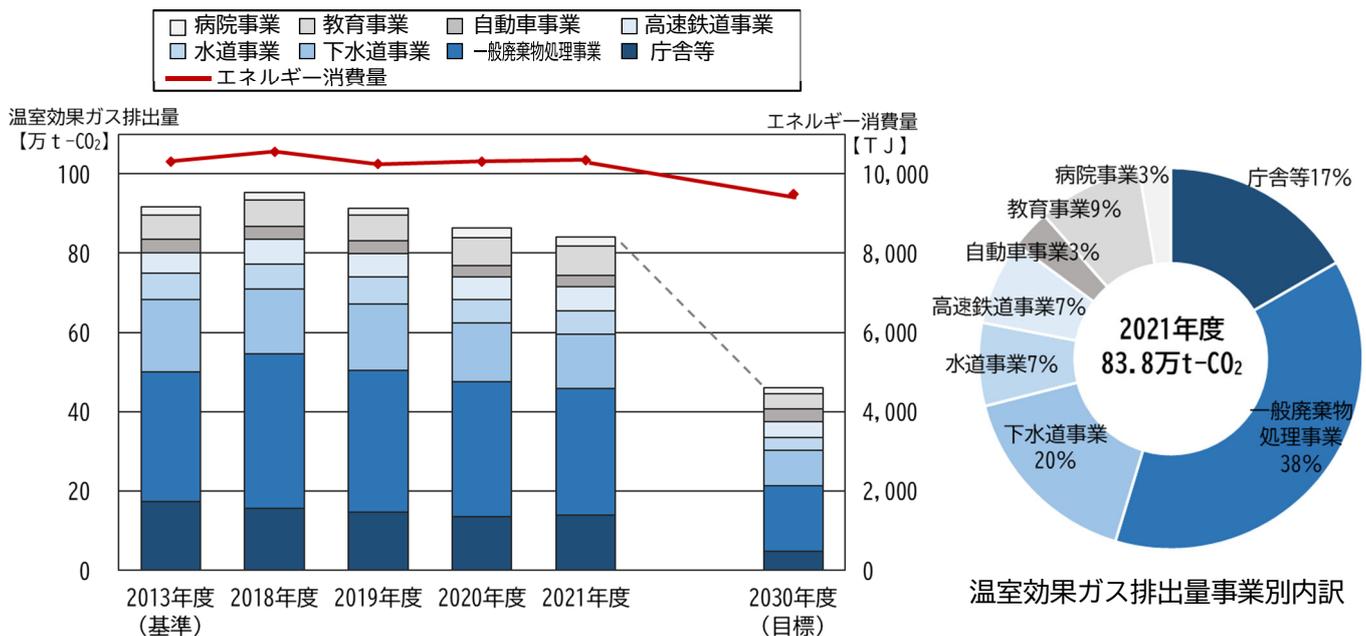
□ 実績及び基準年度との比較

(単位: 万 t-CO₂)

	基準年度 (2013)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		2030 年度 (目標)		
		実績	実績	実績	実績	削減率 基準年度比	目標排出量	削減率 基準年度比	
総排出量	91.6	95.3	91.1	86.3	83.8	▲ 8.6%	46.0	▲ 50%	
庁舎等	17.3	15.6	14.6	13.5	13.9	▲ 19.4%	4.9	▲ 72%	
主要事業	一般廃棄物処理事業	32.8	39.0	35.8	34.0	31.9	▲ 2.9%	16.4	▲ 50%
	下水道事業	18.1	16.4	16.7	14.9	13.7	▲ 24.4%	9.0	▲ 50%
	水道事業	6.8	6.2	6.8	5.8	5.9	▲ 14.4%	3.2	▲ 54%
	高速鉄道事業	5.0	6.2	6.0	5.7	6.0	21.0%	4.0	▲ 20%
	自動車事業	3.4	3.3	3.25	3.0	2.8	▲ 16.4%	3.2	▲ 5%
	教育事業	6.1	6.6	6.4	7.0	7.4	21.0%	3.8	▲ 37%
	病院事業	2.1	1.9	1.8	2.4	2.2	2.6%	1.5	▲ 31%

(注 1) 端数処理により合計や削減率が異なる場合があります。
(注 2) 「削減率」の列は「無印」が増、「▲」が減を示しています。

□ 温室効果ガス排出量の年度推移



温室効果ガス排出量及びエネルギー消費量の年度推移

□ 温室効果ガス排出量の増減状況

本市では、LED 等高効率照明の導入や ESCO 事業、省エネ改修、次世代自動車の導入、下水汚泥の燃料化などの様々な排出削減対策のほか、太陽光発電やバイオマス発電（廃棄物発電、汚泥消化ガス発電）など再生可能エネルギーの創出にも取り組んでいます。

一方、市立学校への空調機器の導入や地下鉄のダイヤ改正など、市民サービス向上等への積極的な取組により、エネルギー消費量は増加する傾向にあります。2021 年度は、市民利用施設の運用状況等がコロナ禍前の状態に戻ったことや、換気の徹底など感染症対策を実施したことなどにより、エネルギー消費量が増加した施設もありました。このほか、プラスチックの焼却量の変動なども、温室効果ガス排出量の増減要因となっています。

【主な増減要因】

区分		主な増減要因（基準年度からの進捗状況）
全事業共通		<ul style="list-style-type: none"> 使用する電力のグリーン化推進（電力排出係数改善）による削減（購入電力平均排出係数 2013：0.484→2021：0.437kg-CO₂/kWh）
庁舎等		<ul style="list-style-type: none"> LED 等高効率照明の導入や省エネ対策等の徹底によるエネルギー消費量の削減 次世代自動車等の導入及び公用車の効率的利用による燃費向上に伴う削減
主要事業	一般廃棄物処理事業	<ul style="list-style-type: none"> 燃やすごみに含まれるプラスチック類及び繊維類の比率の変動による削減（プラスチック類組成割合平均値 2013：10.0 → 2021：9.5%-dry/wet 繊維類組成割合平均値 2013：4.5 → 2021：6.6%-dry/wet）
	下水道事業	<ul style="list-style-type: none"> 下水汚泥の燃料化による削減（2021：7,800t-CO₂）
	水道事業	<ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーを最大限活用した浄水場の稼働、エネルギー効率の良いポンプ設備への更新等による削減
	高速鉄道事業	<ul style="list-style-type: none"> 快速運転導入・ダイヤ改正・駅舎冷房の拡大などに伴うエネルギー使用量の増加
	自動車事業	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブの徹底等燃費向上の推進、ハイブリッドバスの導入（2013：91 台→2021：141 台）等による削減
	教育事業	<ul style="list-style-type: none"> 市立学校の空調機器の稼働増及び感染症対策に伴う積極的な換気実施によるエネルギー使用量の増加 太陽光発電設備や高効率機器の導入等によるエネルギー使用量の抑制
病院事業		<ul style="list-style-type: none"> 新病院への移転、感染症対策に伴う病院の空調機器や医療機器の稼働増によるエネルギー使用量の増加

□ 主な進捗管理指標

	2013 年度	2021 年度	2030 年度（目標）
エネルギー消費量	10,307 TJ	10,340 TJ	9,483 TJ
LED 等高効率照明の割合	-	38%	100%
太陽光発電設備の導入状況	255 施設	321 施設	設置可能な公共施設の約 50%
購入電力のグリーン化推進状況（購入電力平均排出係数）	0.484 kg-CO ₂ /kWh	0.437 kg-CO ₂ /kWh	0.25 kg-CO ₂ /kWh
一般公用車における次世代自動車等の導入状況	81 台 5.2%	428 台 30%	100%

□ 有識者からの意見・助言

- 省エネ対策は非常に重要で、どのように進めていくのか工夫する必要がある。各取組をひとつひとつ着実に積み上げていくしかないが、LED 化のような効果が高い取組については早期に進めるべき。
- 市ができる取組を管理指標として示し、進捗状況を長期的にしっかりと把握・管理していくことは、目標達成に向けて大変重要なことだ。
- 市役所は、市域全体の取組を先導的に進めていく役割を担っていることから、引き続き、最新の状況を反映しながら、着実に取り組んでいただきたい。